

5.4 三浦海岸^{はっせ}初声地区

(ポケットビーチ)

※ 対策の実施に際しては、本計画に基づき、サンドリサイクルの量、質、投入方法等に関する、より具体的な検討を加えるものとします。

三浦海岸初声地区（ポケットビーチ）

【海岸概要】

三浦半島西岸に位置する三浦海岸初声（はっせ）地区は、南端を西ノ崎と初声漁港の防波堤、北端を黒崎の鼻に挟まれた長さ1.1kmのポケットビーチです。岬により遮へいされているため、南部ほど砂浜が広く、北部の黒崎の鼻周辺では岩礁が露出しています。初声地区南端に初声漁港の防波堤が延ばされたことにより、北部から防波堤の遮へい域へと向かう砂の動きが強まり、北部は侵食され、初声漁港付近に砂が溜まる状況となっています。また、初声漁港では、航路確保のための浚渫（砂の除去）が行われました。

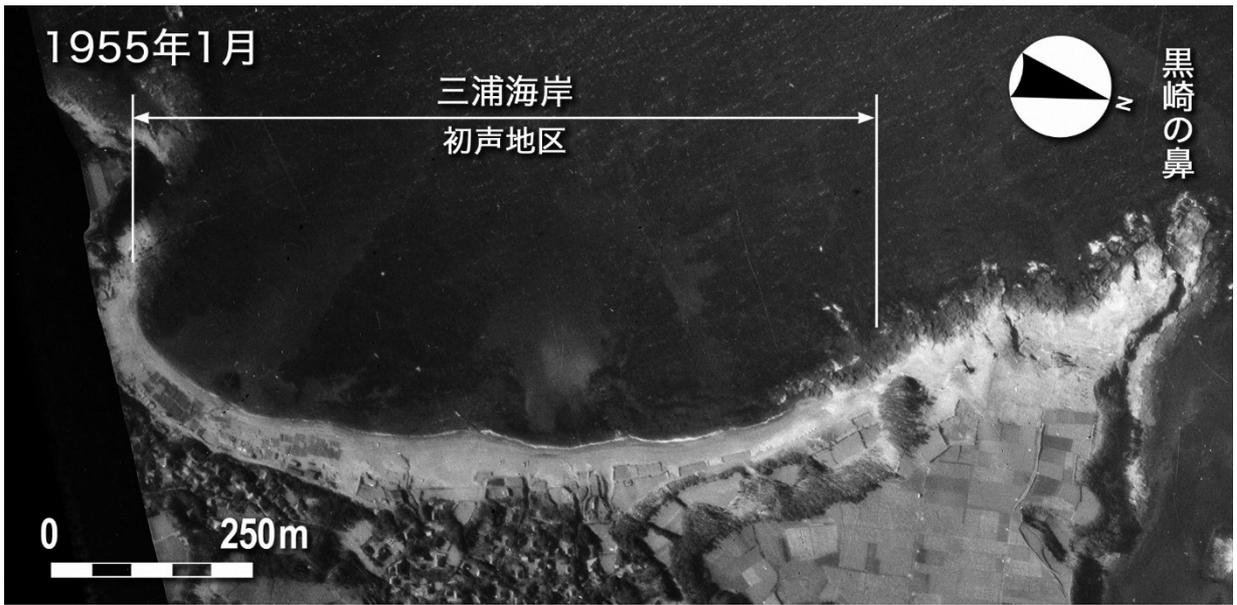
※ 遮へい域：波当たりが弱い区域



【現状の海岸の評価】

海岸名	三浦海岸	
地区名	初声地区	
砂浜の安定性	傾向	侵食（北部）
	変形要因	・初声漁港の防波堤建設により波の遮へい域へと砂が運ばれたため、北部では侵食（海岸線が後退）傾向となっています。
	変形予想	・対策を行わず放置した場合には、北部（黒崎の鼻側）では海岸線が後退することが予想されます。
砂浜の波消し機能による高波からの海岸背後地等の防護	○ 防護されています（ほぼ全域）	
課題	北部の侵食防止	

【空中写真による海岸の変遷】

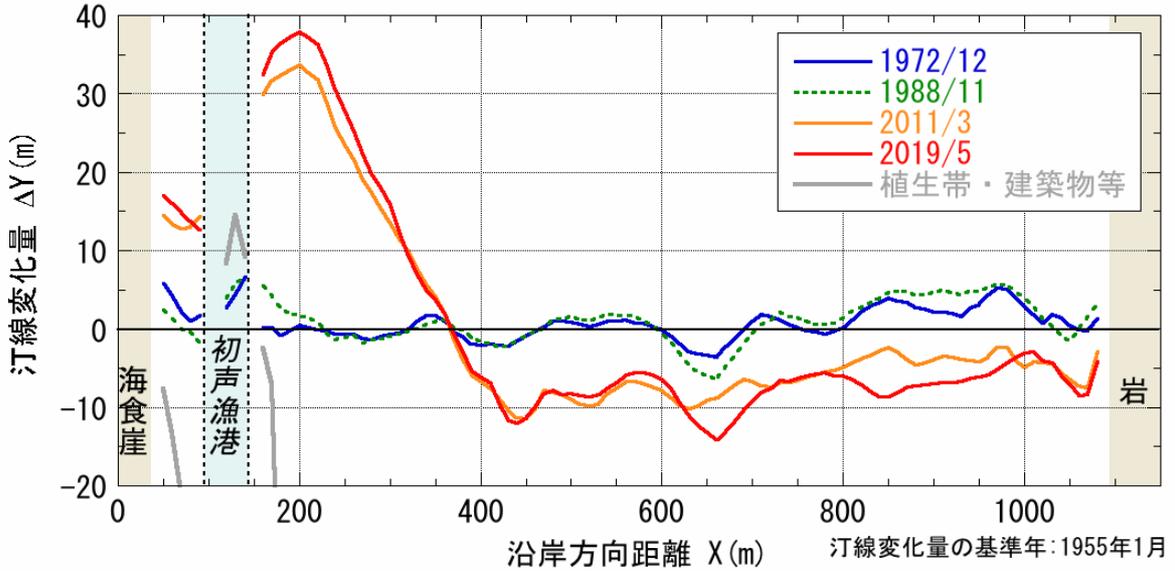


【海岸線の変化】

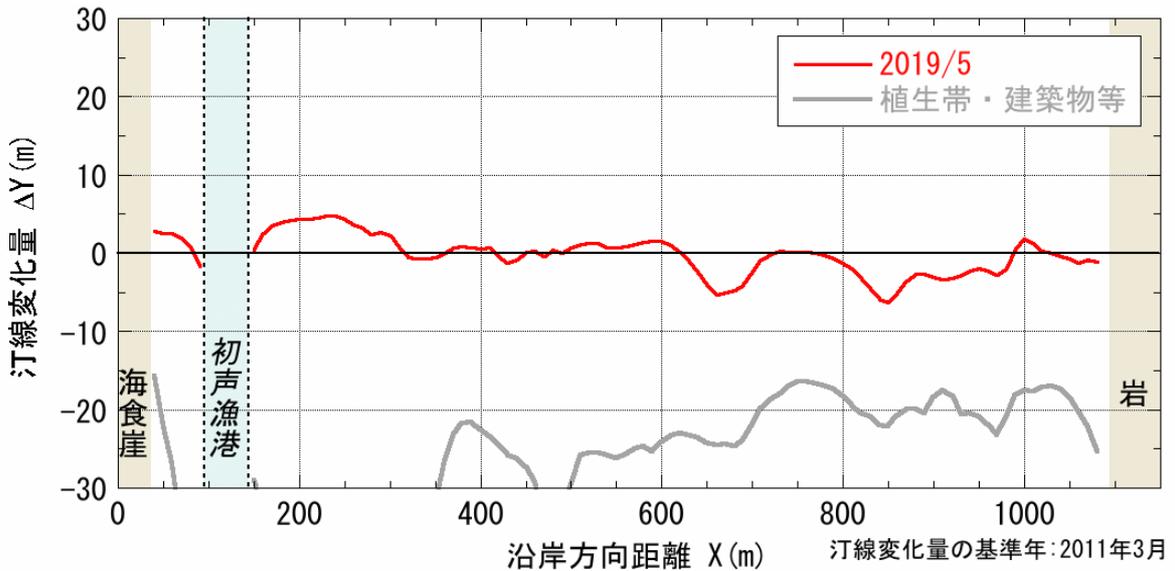
1955年から1988年までは、海岸線の変化は5mであり、安定していましたが、初声漁港の防波堤の延伸により、2011年には、30m以上海岸線が前進しています。

2011年から2019年までは、北部で海岸線が最大5m後退し、南部では最大5m前進しています。また、2011年から初声漁港付近の堆砂を活用したサンドリサイクルが開始され、2019年までに合計で2,400m³（平均で270m³/年）の砂が海岸の北端部に戻されていますが、北部では侵食傾向が続いています。

長期の汀線変化（1955～2019年）



近年の汀線変化（2011～2019年）



【侵食対策の基本方針】

砂浜の安定性と波消し機能より、三浦海岸初声地区の砂浜の回復・保全の方向性は以下の通りです。

三浦海岸	砂浜評価	基本方針
初声地区	タイプC	<ul style="list-style-type: none"> ・北部では浜幅が狭く、侵食傾向にあり、北部の一部で砂浜の消波し機能による防護が不足していることから、初声漁港から北部へのサンドリサイクルによって砂浜の維持・回復を図ります。 ・長期的には初声漁港へ向かう砂の移動量を抑制するための施設の配置を検討することが望まれます。

【侵食対策の計画浜幅】

三浦海岸	計画浜幅
初声地区	現状の砂浜

【侵食対策計画】

侵食対策として現状の砂浜の保全（維持・管理）していくために必要なサンドリサイクルの計画量は以下の通りとします。

三浦海岸	侵食対策計画
初声地区	初声漁港の防波堤背後から北部へのサンドリサイクル500m ³ /年

【侵食対策・維持管理のイメージ】



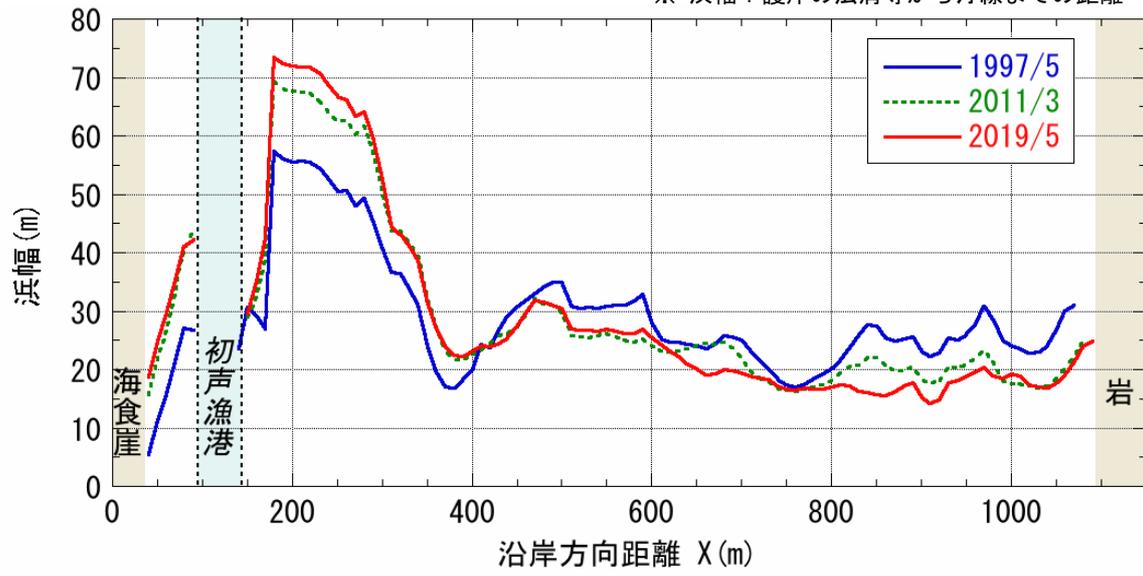
【維持管理】

漁港の堆砂防止と北側の侵食対策として、砂浜の状況をモニタリングしつつ、サンドリサイクル500m³/年を継続していくものとします。

三浦海岸	維持管理
初声地区	初声漁港の防波堤背後から北部へのサンドリサイクル500m ³ /年

【浜幅の変化】

※ 浜幅：護岸の法肩等から汀線までの距離



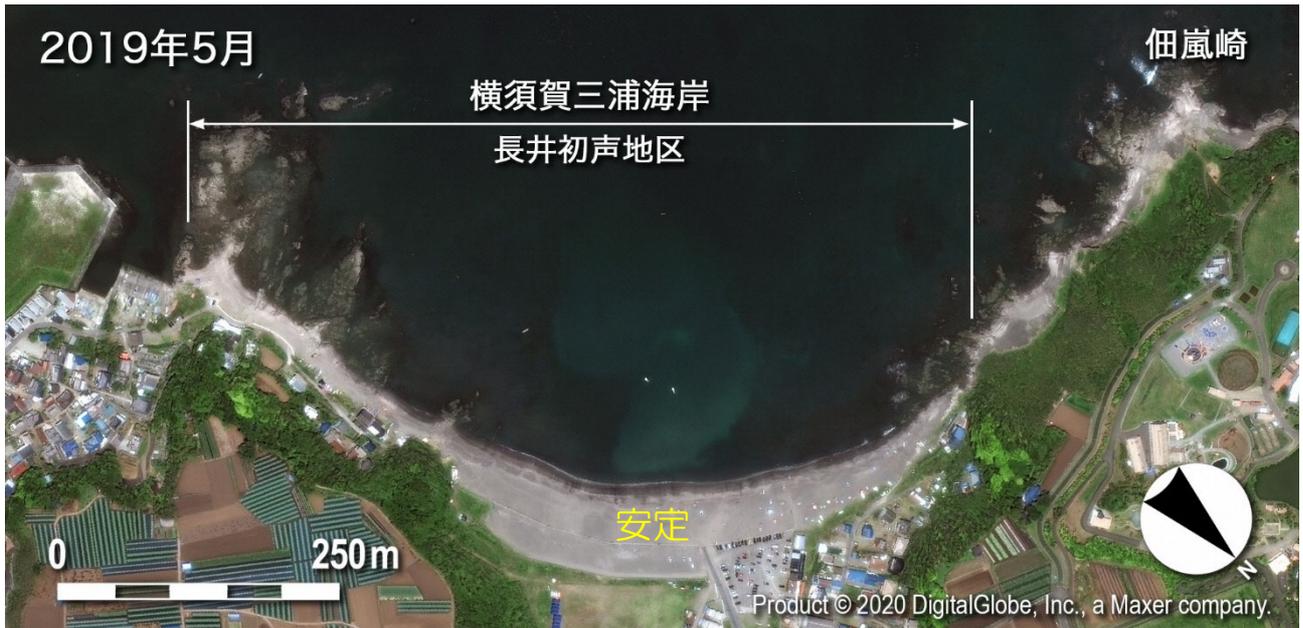
5.5 横須賀三浦海岸長井^{はっせ}初声地区 (ポケットビーチ)

※ 対策の実施に際しては、本計画に基づき、サンドリサイクルの量、質、投入方法等に関する、より具体的な検討を加えるものとします。

横須賀三浦海岸長井初声地区（ポケットビーチ）

【海岸概要】

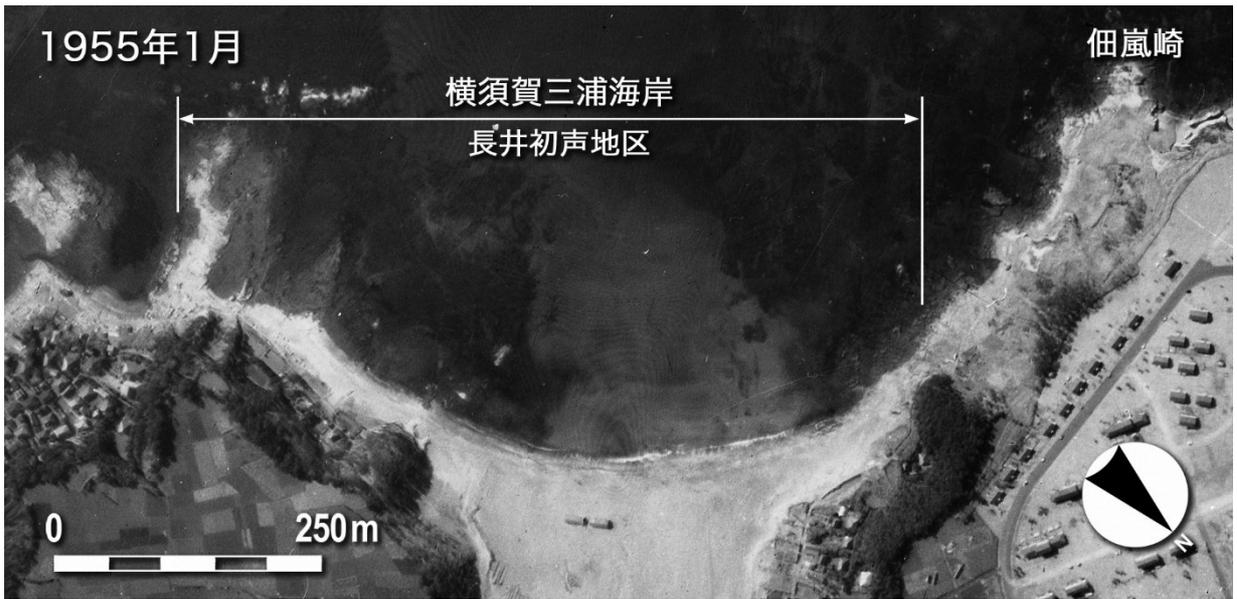
三浦半島の南部に位置する横須賀三浦海岸長井初声地区は、南側を黒崎の鼻、北側を佃嵐崎の岩礁に挟まれた長さ約 700m のポケットビーチです。過去には黒崎の鼻の北側には深い入り江がありましたが、この入り江は埋め立てられたため、現在では埋立地の北側の岩礁から佃嵐崎までの間に弓状の砂浜が広がっています。海岸背後は海岸段丘と呼ばれる小高い丘になっており、冬季の西風により背後地への飛砂が発生しています。



【現状の海岸の評価】

海岸名		横須賀三浦海岸
地区名		長井初声地区
砂浜の安定性	傾向	安定
	変形要因	・海岸構造物の建設等の人為的改変はほとんど行われておらず、海浜はほぼ安定しています。
	変形予想	・ほとんど変化がありません。
砂浜の波消し機能による高波からの海岸背後地等の防護		△ 一部で防護が不足しています
課題		一部区間の侵食防止と背後地の防護

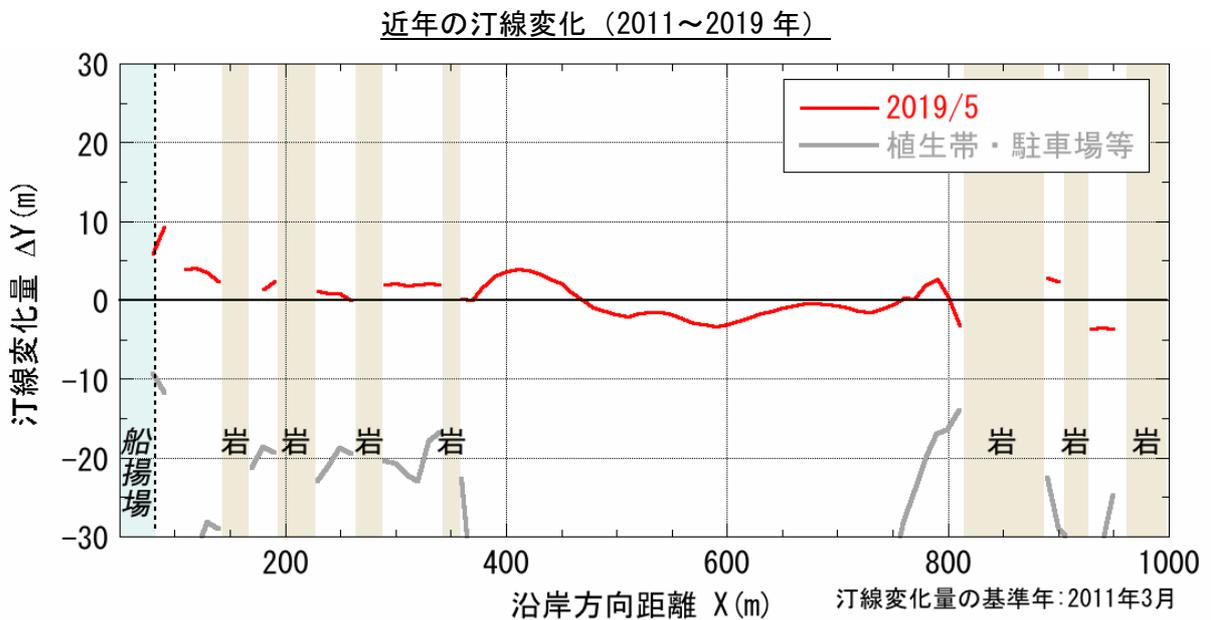
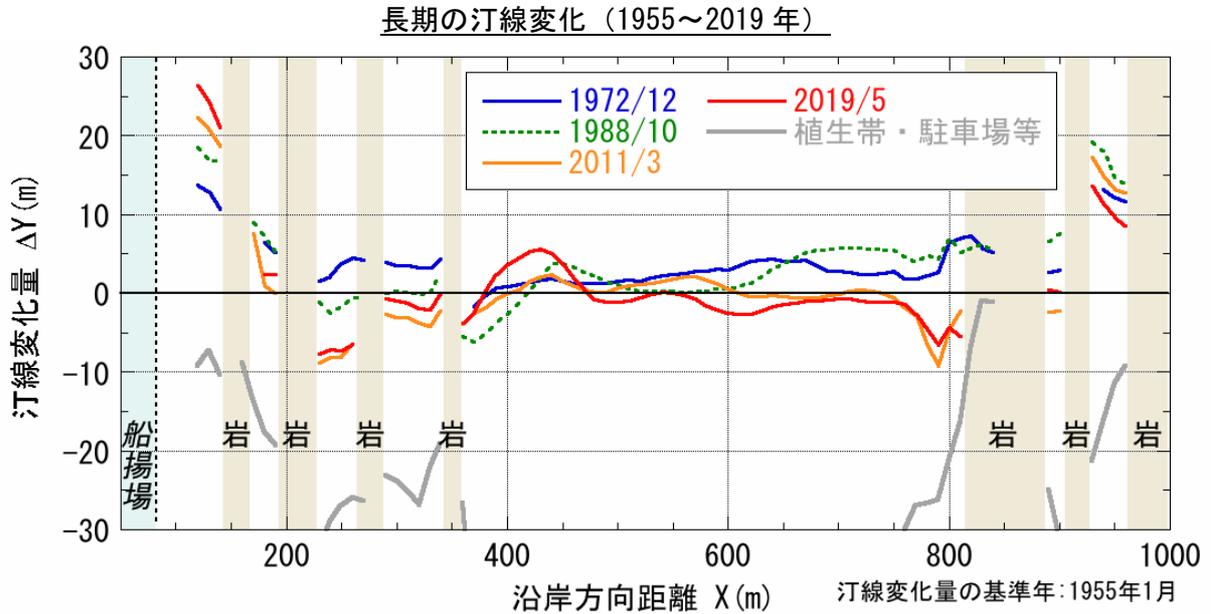
【空中写真による海岸の変遷】



【海岸線の変化】

1955年から1988年までは全体的に海岸線が前進傾向にありましたが、1988年から2011年までは一転して最大10m以上、海岸線が後退し、総じて海岸線の変化は小さく、安定しています。

2011年から2019年の海岸線の変化は5m以内と小さく、安定しています。



【侵食対策の基本方針】

砂浜の安定性と波消し機能より、三浦海岸長浜地区の砂浜の回復・保全の方向性は以下の通りです。

横須賀三浦海岸	砂浜評価	基本方針
長井初声地区	タイプB	<ul style="list-style-type: none"> ・ほぼ全域で、砂浜は安定傾向にありますが、一部で砂浜の消波機能による背後地の防護が不足していることから、必要に応じて護岸の改良及び砂浜を保全（維持・管理）します。 注）防護水準が不足している箇所の背後地には現状では民家等がないため、当面の間は砂浜及び背後地の状況を注視しつつ、必要に応じて対策を行います。

【侵食対策の計画浜幅】

横須賀三浦海岸	計画浜幅
長井初声地区	現状の砂浜

【侵食対策計画】

横須賀三浦海岸	侵食対策計画
長井初声地区	陸地側に堆積した飛砂を海岸線へ戻します（堆砂の汀線への押し出し）、また、必要に応じて中央部の堆砂を両端部に戻すサンドリサイクルを行います。

【維持管理】

陸地側に堆積した飛砂を海岸線へ戻す等及びサンドリサイクルにより、砂浜の維持を図ります。

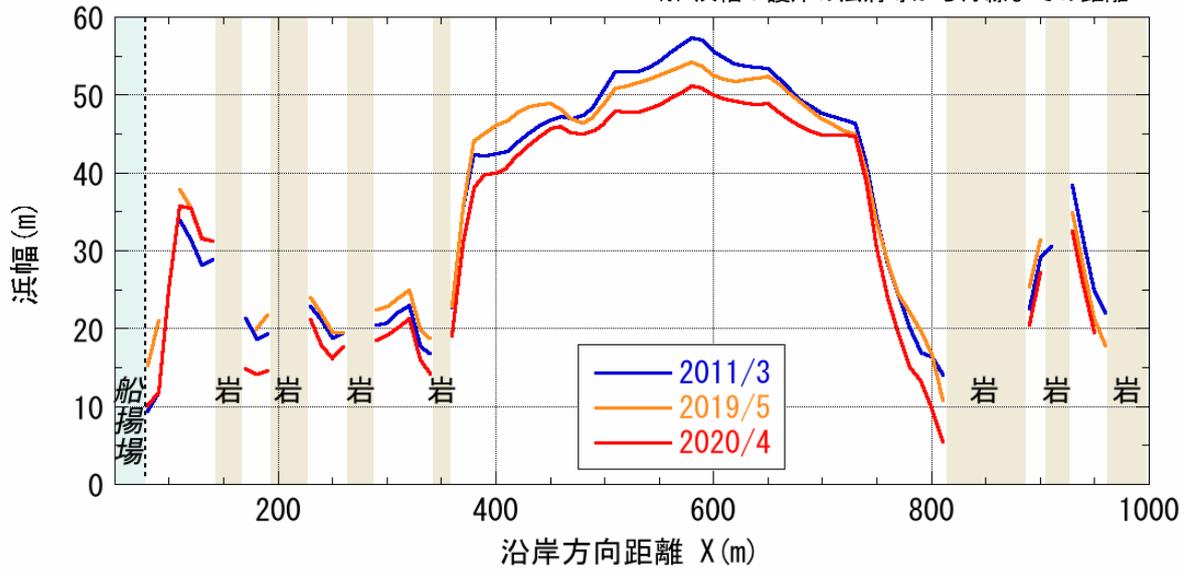
横須賀三浦海岸	維持管理
長井初声地区	陸地側に堆積した飛砂を海岸線へ戻します（堆砂の海側への押し出し）、また必要に応じて中央部の堆砂を両端部に戻すサンドリサイクルを行います。

【侵食対策・維持管理のイメージ】



【浜幅の変化】

※ 浜幅：護岸の法肩等から汀線までの距離



5.6 横須賀海岸秋谷(海老田)地区 (ポケットビーチ)

※ 対策の実施に際しては、本計画に基づき、サンドリサイクルの量、質、投入方法等に関する、より具体的な検討を加えるものとします。

横須賀海岸秋谷(海老田)地区 (ポケットビーチ)

【海岸概要】

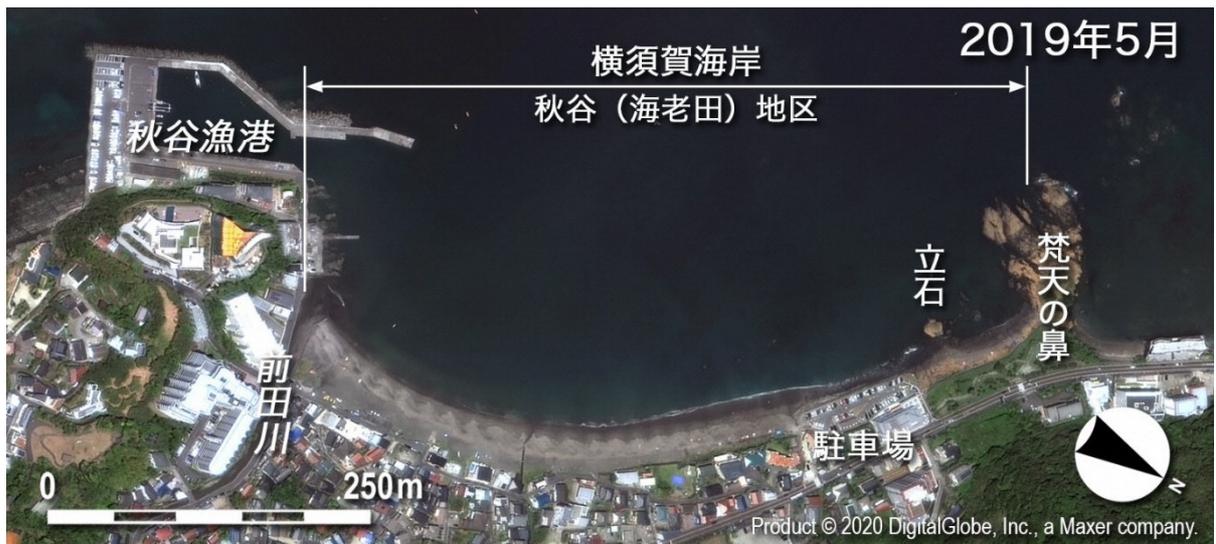
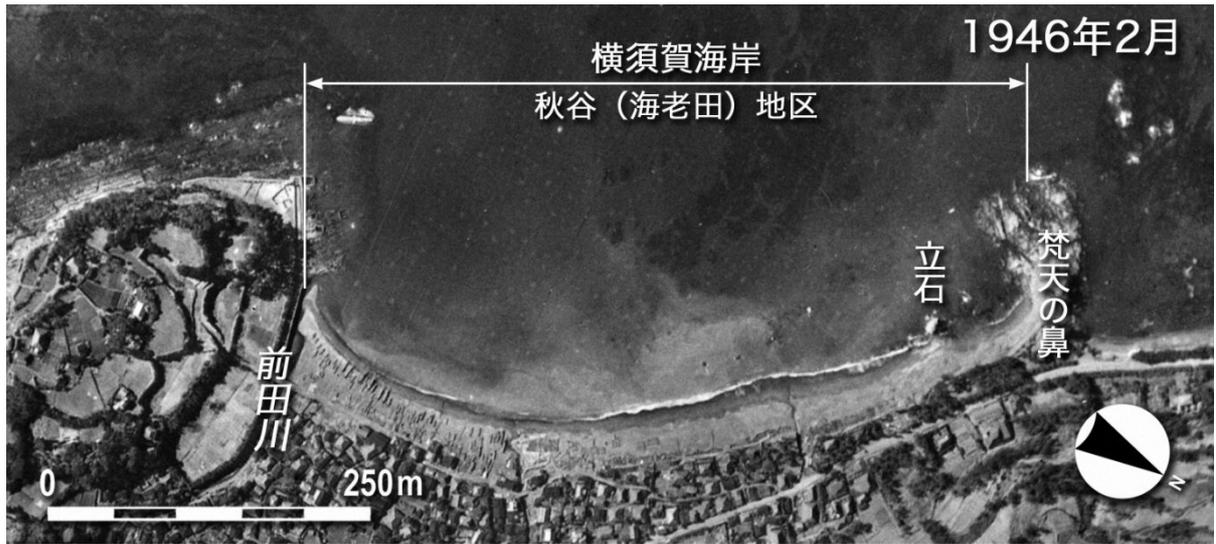
横須賀海岸秋谷(海老田)地区は、南端を秋谷漁港、北端を梵天の鼻の岬に挟まれた長さ 570m のポケットビーチです。南端にある秋谷漁港の防波堤が北向きに長く伸びているため、その北側には波の遮へい域が形成され、南側へと向かう砂の動きが発生しました。その結果、前田川河口右岸では海岸線が前進する一方、北側の梵天の鼻の近くでは浜幅が狭まり、駐車場前面には砂浜がほとんどない状態となっています。また、沖合の浅海域には露出した岩域が広がっています。



【現状の海岸の評価】

海岸名	横須賀海岸	
地区名	秋谷(海老田)地区	
砂浜の安定性	傾向	安定
	変形要因	<ul style="list-style-type: none"> 秋谷漁港の建設により波の遮へい域へと砂が移動し、北部で侵食、南部で堆積となる地形変化傾向となっていますが、最近の地形変化は小さくなっています。 高波浪が襲来した場合には、かなり大きな地形変化が起こります。
	変形予想	<ul style="list-style-type: none"> 変化は小さいと予想されます。
砂浜の波消し機能による高波からの海岸背後地等の防護	○ 防護されています	
課題	現状の砂浜の維持	

【空中写真による海岸の変遷】

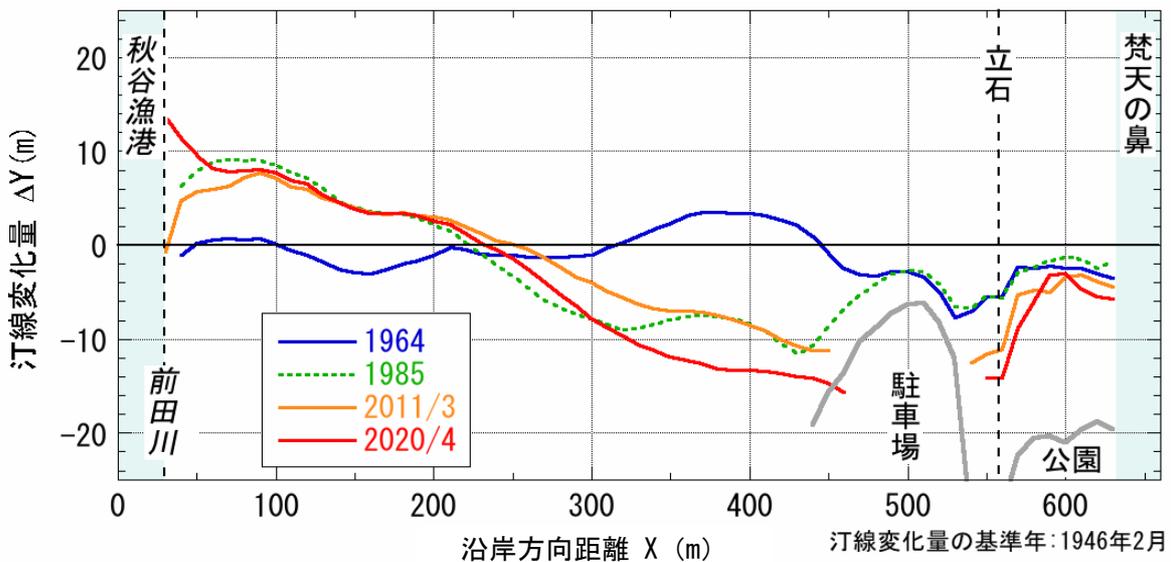


【海岸線の変化】

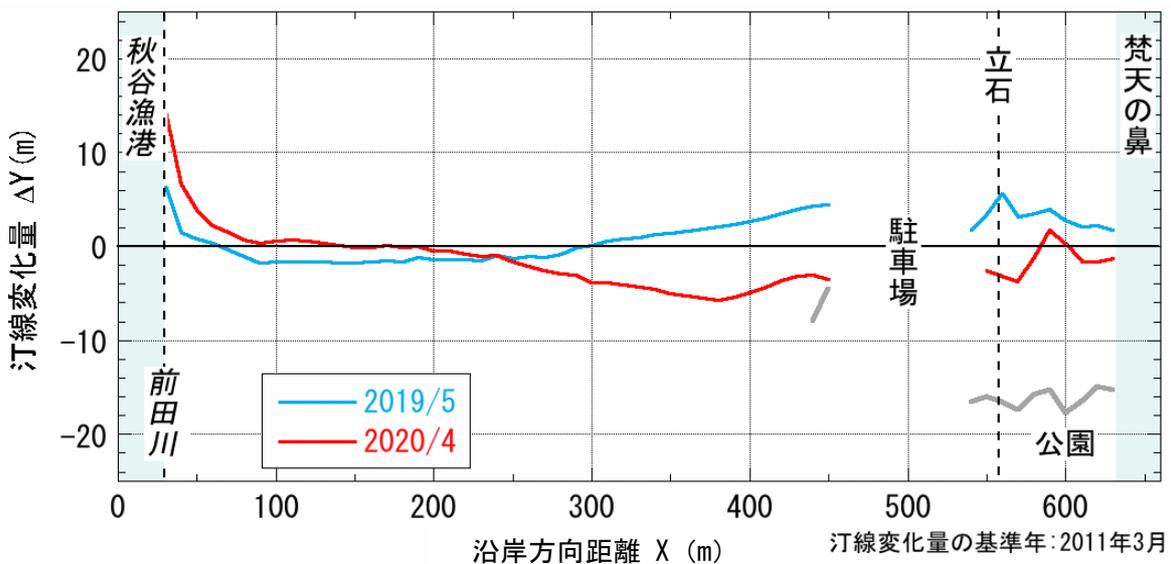
1946年から1985年までの海岸線の変化では、北部の海岸線が約10m後退し、南部で約10m前進しました。1985年から2011年までは、駐車場周辺の海岸線がさらに約5m後退していますが、他の箇所の海岸線の変化は5m以下となっています。

2011年から2019年までの海岸線の変化は、前田川河口部近傍の堆積を除いて5m以下と小さく、安定した状態を保っています。しかし、2019年10月12日に襲来した台風第19号の高波の作用により、波の遮へい域へと向かう南向きの沿岸漂砂が生じ、2020年では駐車場南側の海岸線が最大7m後退すると同時に、南端の前田川河口では海岸線が前進しました。

長期の汀線変化 (1946~2020年)



近年の汀線変化 (2011~2020年)



【侵食対策の基本方針】

砂浜の安定性と波消し機能より、横須賀海岸秋谷（海老田）地区の砂浜の回復・保全の方向性は以下の通りです。

横須賀海岸	砂浜評価	基本方針
秋谷（海老田）地区	タイプD	・砂浜は安定傾向にあり、砂浜の消波し機能により背後地の防護水準が保たれていることから、前田川河口右岸の堆積土砂を用いたサンドリサイクルにより、現状の砂浜を保全（維持・管理）します。

【侵食対策の計画浜幅】

横須賀海岸	計画浜幅
秋谷（海老田）地区	現状の砂浜

【侵食対策計画】

横須賀海岸	侵食対策計画
秋谷（海老田）地区	なし

【維持管理】

砂浜の状況をモニタリングし、高波浪により前田川河口右岸に著しく砂が堆積した場合には、堆積した砂を北部海岸（駐車場付近）に戻すサンドリサイクルを実施し、砂浜の保全（維持・管理）を図ります。

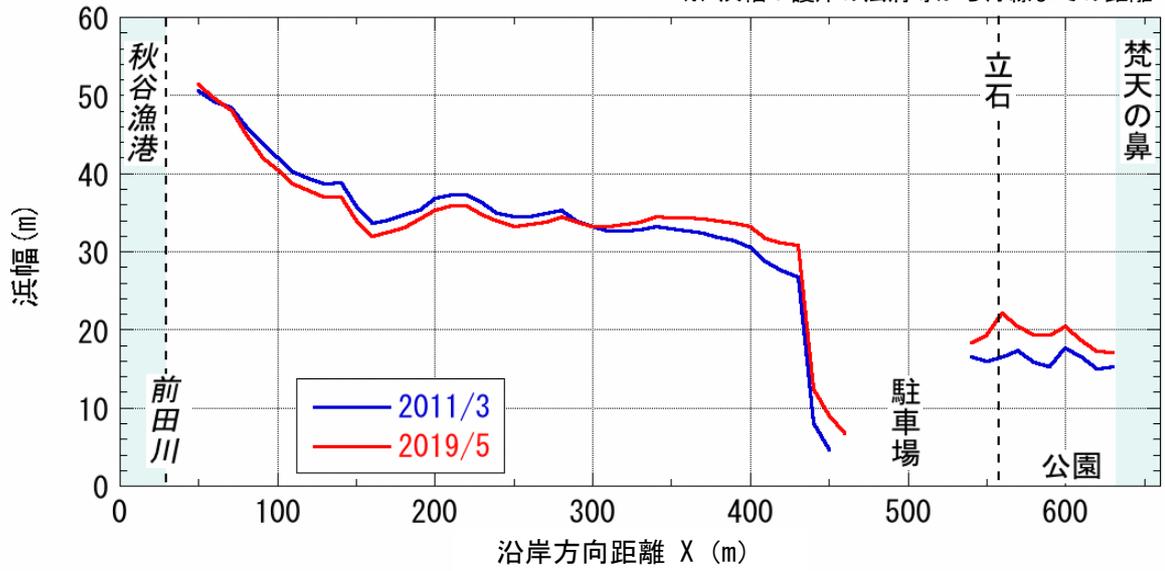
横須賀海岸	維持管理
秋谷（海老田）地区	数年毎に前田川河口右岸の堆積した土砂を北部（駐車場付近）に戻すサンドリサイクル（500m ³ 程度）を実施します。

【維持管理のイメージ】



【浜幅の変化】

※ 浜幅：護岸の法肩等から汀線までの距離



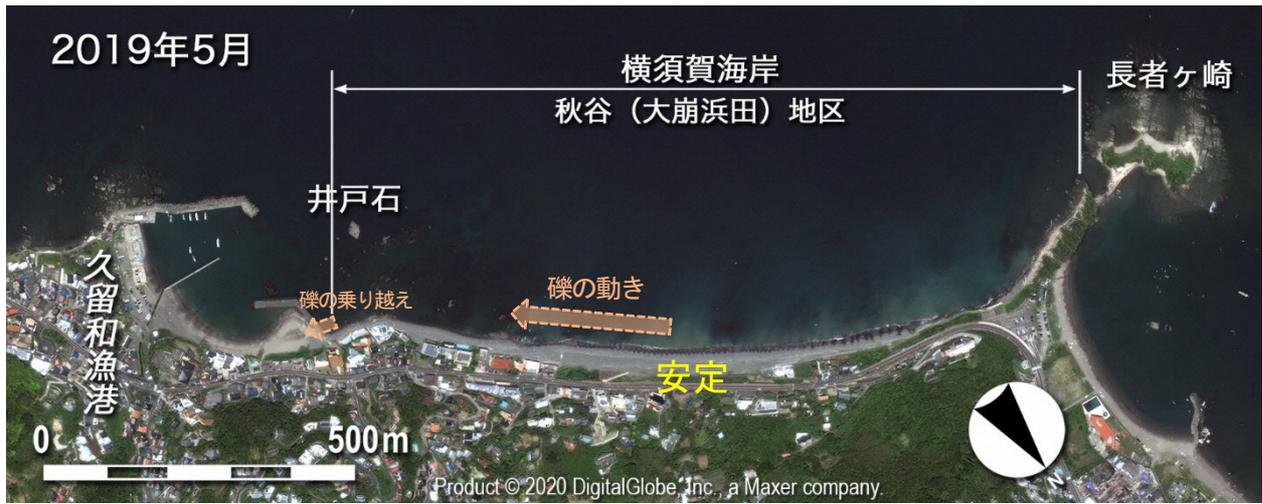
5.7 横須賀海岸秋谷(大崩浜田)地区 (ポケットビーチ)

※ 対策の実施に際しては、本計画に基づき、養浜及びサンドリサイクルの量、質、投入方法等に関する、より具体的な検討を加えるものとします。

横須賀海岸秋谷(大崩浜田)地区 (ポケットビーチ)

【海岸概要】

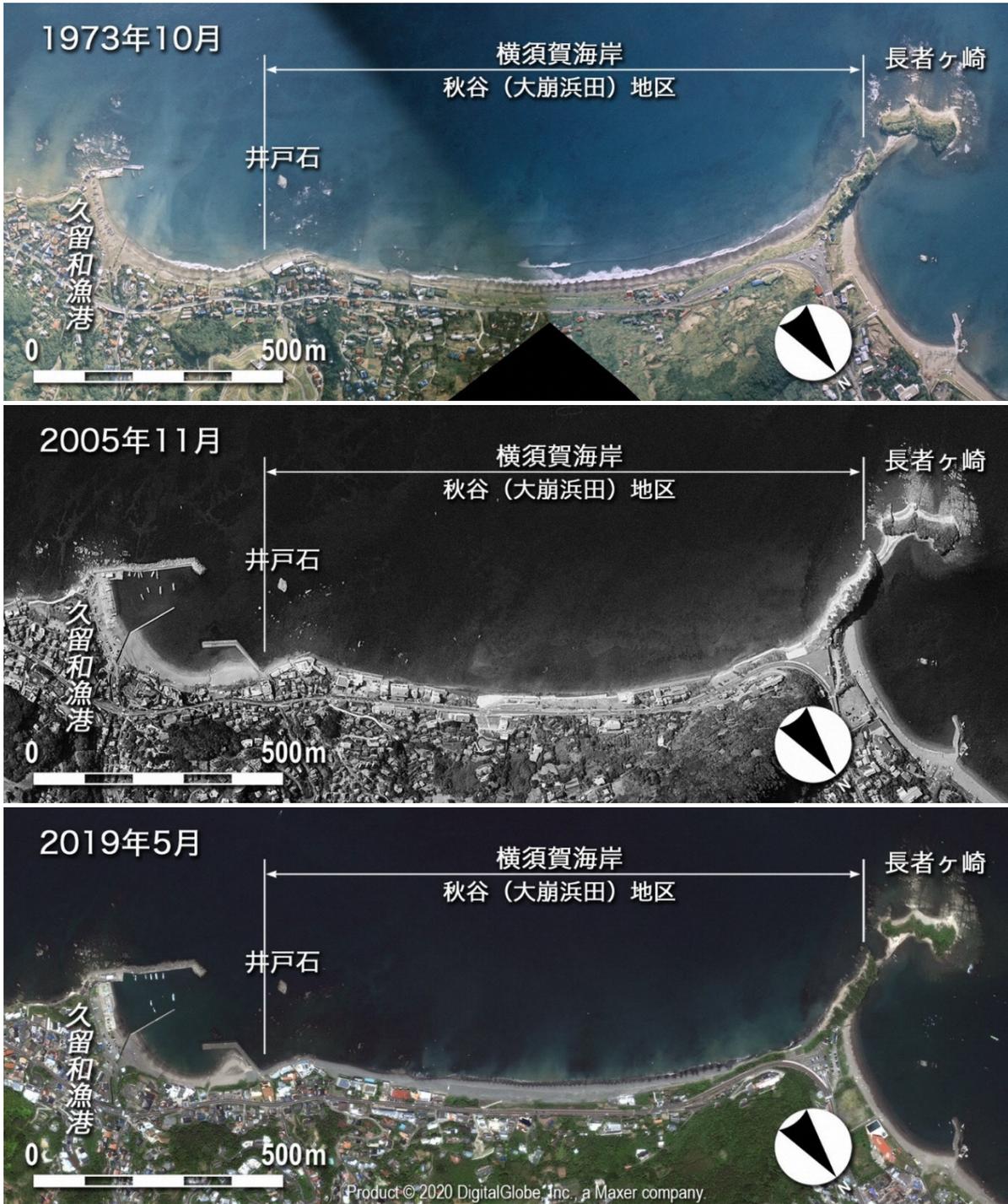
横須賀海岸秋谷(大崩浜田)地区は、三浦半島西岸に位置しており、南東端の久留和漁港と長者ヶ崎に挟まれた長さ 1.3km のポケットビーチです。1973 年から 1990 年までには久留和漁港の防波堤が建設され、防波堤背後の波の遮へい域へと向かう東向きの漂砂が起り、秋谷地区全体で著しい侵食が起きました。この結果、2005 年までに砂浜は大きく狭まり、海岸線に沿って立ち並ぶ家屋が越波被害を受けるとともに、背後の国道 134 号の歩道部が崩壊するなどの被害が発生しました。そのため、2006 年度から礫による養浜を実施したところ、一部区間を除き十分な広さの砂浜が回復しました。



【現状の海岸の評価】

海岸名	横須賀海岸	
地区名	秋谷(大崩浜田)地区	
砂浜の安定性	傾向	安定
	変形要因	<ul style="list-style-type: none"> ・久留和漁港の建設により、波の遮へい域へ土砂が移動し、全体的に侵食（海岸線が後退）しました。 ・2006 年以降、合計で 80,000m³ の礫養浜を実施した結果、砂浜は回復し、現在はほぼ安定傾向となっています。 ・久留和漁港の L 型突堤を越えて一部の礫が漁港内に流入しています。
	変形予測 (10 年後)	<ul style="list-style-type: none"> ・対策を行わず放置した場合でも、海岸線の後退量は最大で 3m 程度と安定しています。 ・久留和漁港突堤を越える礫の流出（漁港内への流入）が続きます。
砂浜の波消し機能による高波からの海岸背後地等の防護	○ 防護されています	
課題	現状の砂浜の維持	

【空中写真による海岸の変遷】



【砂浜の変化】

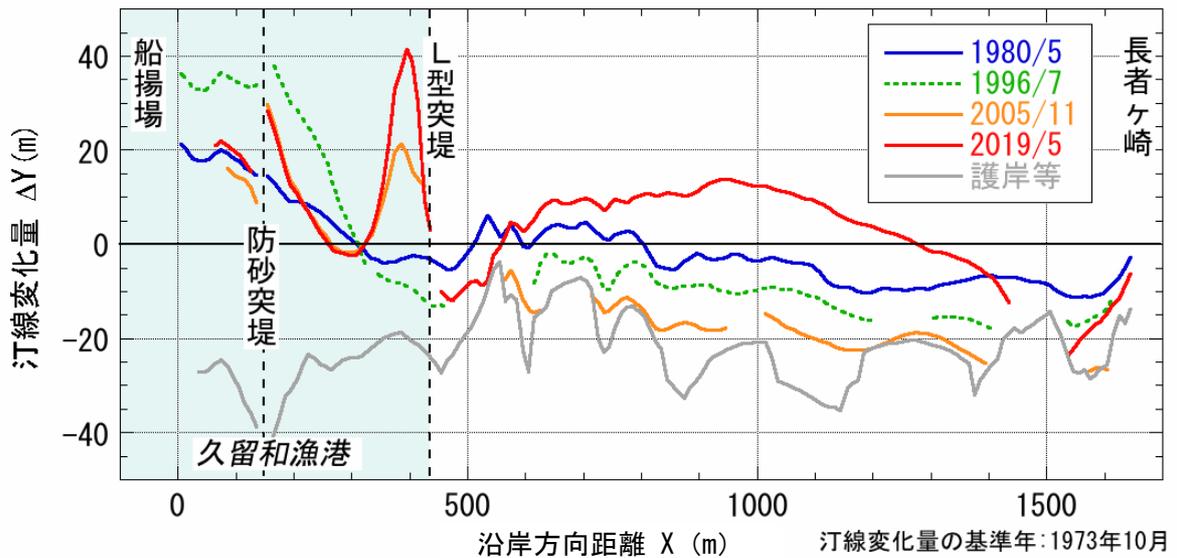


【海岸線の変化】

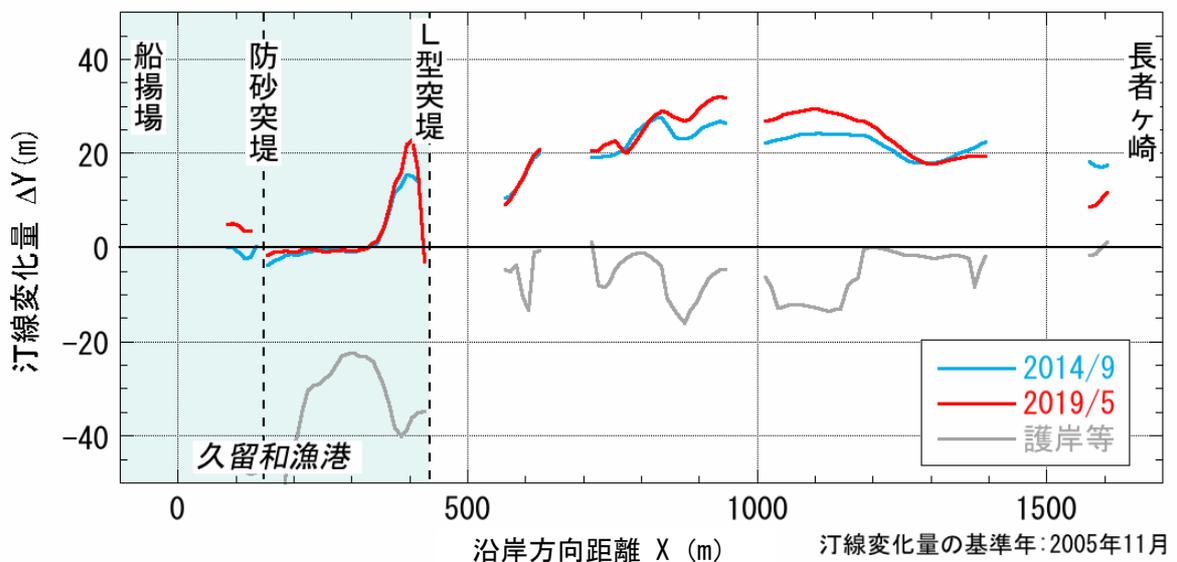
1973年から1980年までは、岩礁のある東部では海岸線の変化は小さかったですが、西部では海岸線が約10m後退しました。1980年から2005年までも、海岸線の後退傾向が続き、海岸中央部ではさらに約10m以上後退し、砂浜がなくなった場所も少なくありません。

2005年から2014年までは、2007年から2014年までに合計80,000m³の礫養浜が行われたことにより、L型突堤から長者ヶ崎間では20~30m程度海岸線が前進しています。2014年から2019年までは、中央部でやや前進傾向を示し、長者ヶ崎に近い場所を除いて海岸線の後退は生じていません。一方で、L型突堤の背後では堆積傾向となっています。

長期の汀線変化（1973～2019年）



近年の汀線変化（2005～2019年）



【侵食対策の基本方針】

砂浜の安定性と波消し機能より、横須賀海岸秋谷(大崩浜田)地区の砂浜の回復・保全の方向性は以下の通りです。

横須賀海岸	砂浜評価	基本方針
秋谷(大崩浜田)地区	タイプD	・ 礫養浜の効果により浜幅が広がり、現状では砂浜は安定傾向にあり、砂浜の消波機能により背後地の防護が保たれています。一方、浜幅の狭い箇所では必要に応じて養浜により砂浜を保全(維持・管理)します。

【侵食対策の計画浜幅】

横須賀海岸	計画浜幅
秋谷(大崩浜田)地区	17m

【侵食対策計画】

横須賀海岸	侵食対策計画
秋谷(大崩浜田)地区	なし 注) 計画浜幅が不足している箇所では、当面の間は砂浜及び背後地の状況を注視しつつ、必要に応じて対策を行います。

【維持管理】

横須賀海岸	維持管理
秋谷(大崩浜田)地区	砂浜の状況をモニタリングし、必要に応じて養浜やサンドリサイクルを行います。久留和漁港L型突堤を越える礫の流出(漁港内への流入)を防止するために、L型突堤の改良(天端高を上げる)等の対策について、漁港管理者と調整します。

【維持管理のイメージ】



【維持管理（L型突堤を高くする）の有無による浜幅の変化予測結果（10年後）】

